

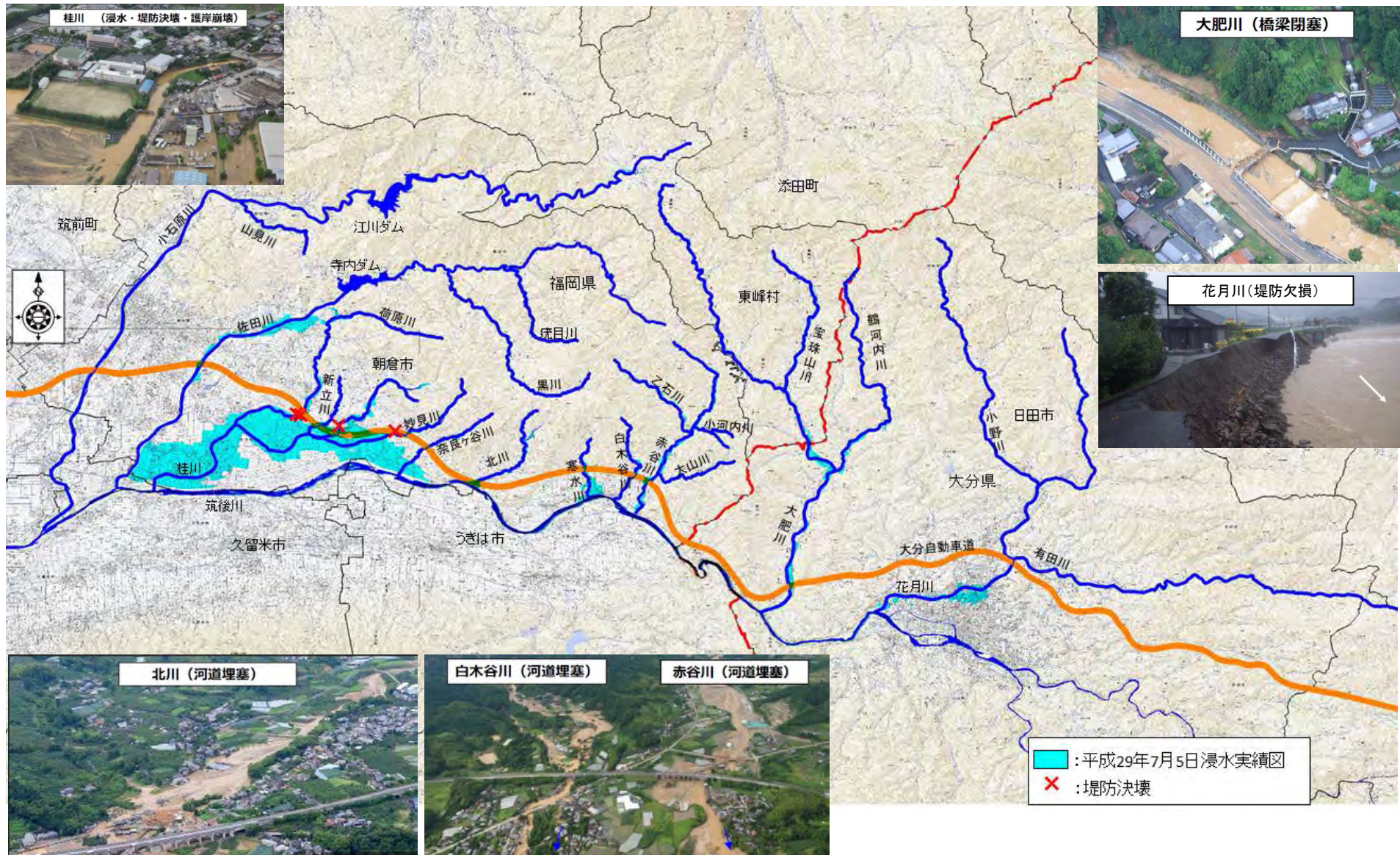
# 平成29年7月九州北部豪雨の被害状況

平成29年10月30日

平成29年7月九州北部豪雨災害を踏まえた避難に関する検討会

# 平成29年7月九州北部豪雨による被害(浸水被害)

○ 平成29年7月九州北部豪雨では、筑後川右岸の支川において堤防の決壊、大量の土砂や流木による河道埋塞等により浸水被害が発生。



# 平成29年7月九州北部豪雨による被害(土砂災害)

## 8月31日現在 土砂災害発生件数

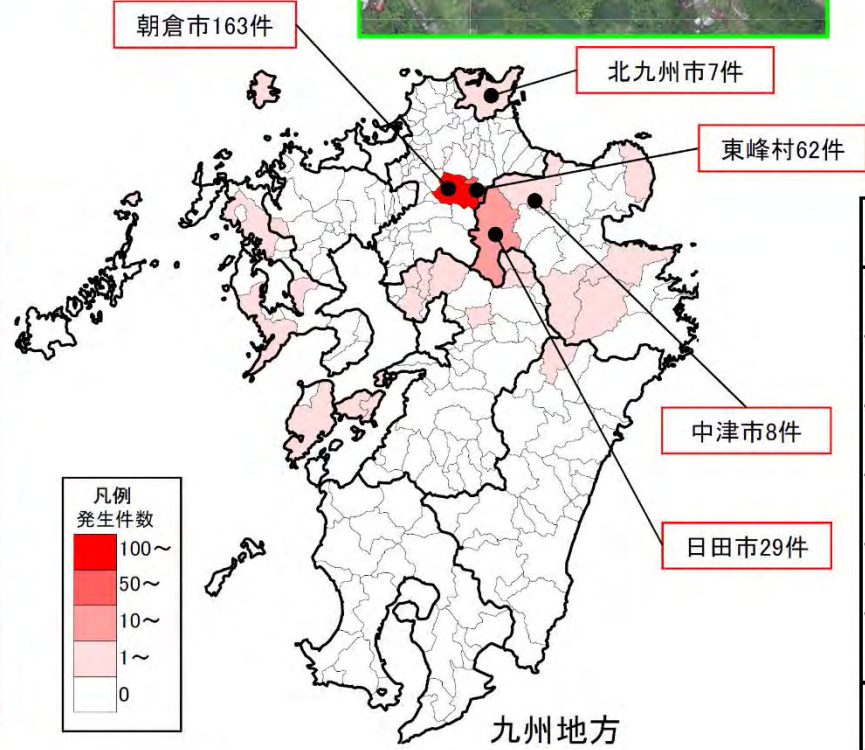
**307件**

土石流等：163件  
地すべり：3件  
がけ崩れ：141件

### 【被害状況】

人的被害：死者 20名  
負傷者 2名  
人家被害：全壊 99戸  
半壊 63戸  
一部損壊 104戸

※これは速報であり、数値等は今後変わることもあります。



## 都道府県別 土砂災害発生件数

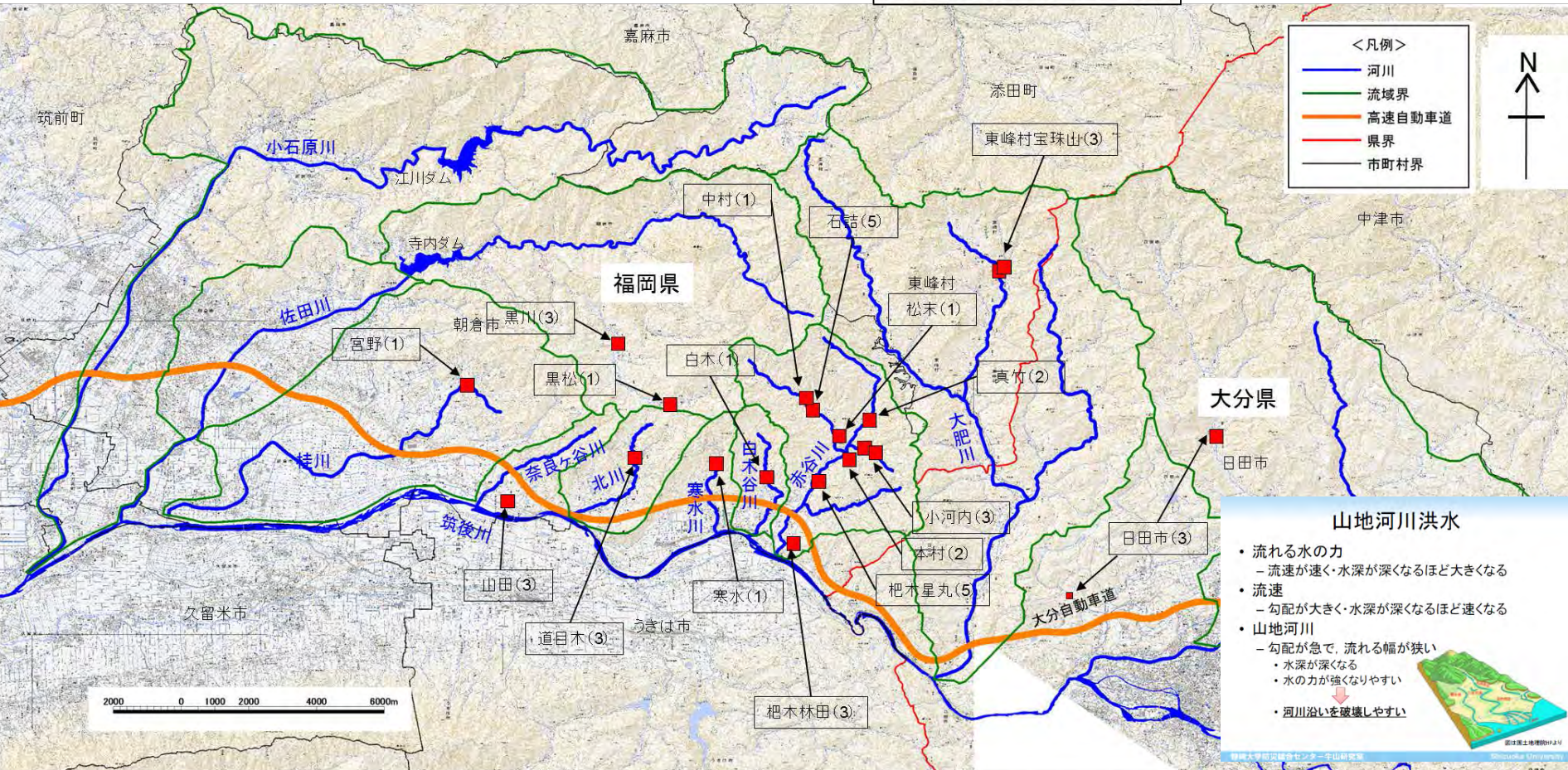
県名	発生件数
福岡県	232件
佐賀県	1件
長崎県	9件
熊本県	22件
大分県	42件
宮崎県	1件
合計	307件

# 平成29年7月九州北部豪雨による被害(人的被害)

- 死者・行方不明者は、朝倉市(35名)、東峰村(3名)、日田市(3名)の合計41名。
- 静岡大学牛山教授の災害後調査結果資料<sup>1)</sup>によるとは、半数以上の22名が赤谷川流域内で被災していたと推定。

死者37人、行方不明者4人、計41人<sup>2)</sup>  
発生箇所は26箇所と推定

— 凡例 —  
地区名(死者・行方不明者数)



## 死者・行方不明者の推定発生箇所

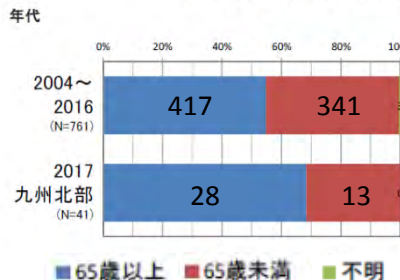
- 1) 平成29年7月九州北部豪雨による人的被害発生状況・発生場所の特徴(速報)(静岡大学防災総合センター 現地調査速報会 公表資料)をもとに作成
- 2) 消防庁災害対策本部「平成29年6月30日からの梅雨前線に伴う大雨及び台風第3号の被害状況及び消防機関等の対応状況等について(第68報) 平成29年9月8日(金) 15時00分」より

・山地河川洪水のスライドについては、「平成29年7月九州北部豪雨による人的被害発生状況・発生場所の特徴(速報)(静岡大学防災総合センター 牛山兼行 現地調査速報会 公表資料)」  
・それ以外については、「第2回 筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討会」資料を加工

# 平成29年7月九州北部豪雨による被害(人的被害)

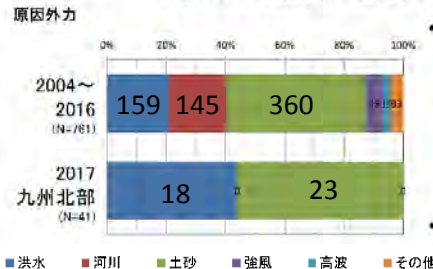
○ 静岡大学牛山教授の災害後調査結果資料<sup>1)</sup>では、被害の特徴として、「土砂」の率も高いが、「洪水」の率も高いことや、「洪水」による犠牲者が比較的多いにもかかわらず、遭難場所として「家屋」が多いこと等を挙げている。

## 年代別犠牲者数



- 一般的傾向より高齢者に偏り
- 屋間の災害の影響か?
- 足が不自由など、要支援と推定される者は3人
- 犠牲者全体では要支援推定者は6%、今回が特に多くはない

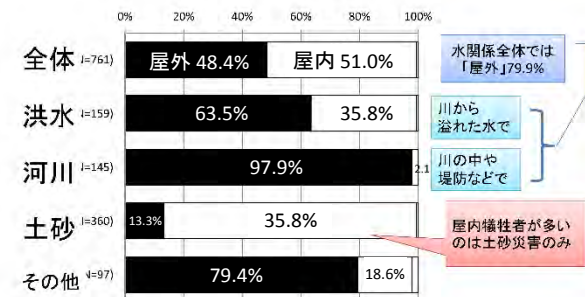
## 原因別犠牲者数



- 「土砂」の率も高いが、「洪水」の率も高い
- 大河川の氾濫ではなく、山地河川洪水
- 「田んぼを見回りに」等の川に近づいたケースは見られない

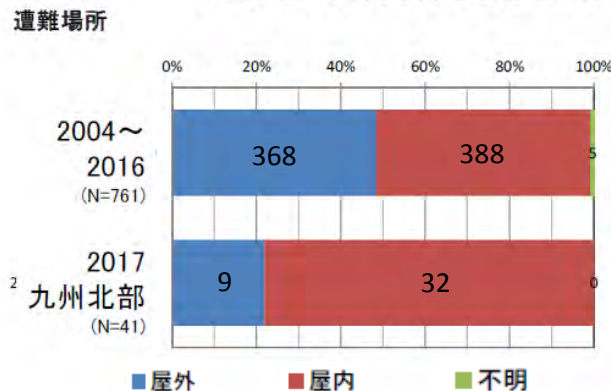
- 「洪水」は河道外に溢れた水に起因する犠牲者
- 「河川」は河川に近づき河道内・河道付近で遭難した犠牲者
- 九州北部で、番地程度まで位置推定は洪水14人、土砂22人

## 原因・遭難場所別犠牲者数 (2004～2016)



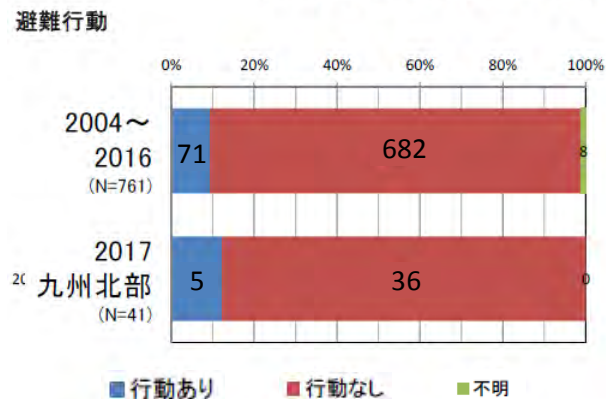
- 水関係全体では「屋外」79.9%
- 川から溢れた水で
- 川の中や堤防などで
- 屋内犠牲者が多いのは土砂災害のみ

## 遭難場所別犠牲者数



- 屋内犠牲者が多い
- 「洪水」が比較的多いにもかかわらず「屋内」が多いことが特徴
- 「屋内」犠牲者発生家屋はすべて流失

## 避難行動の有無



- 「行動あり」は多くも少なくもない
- 5人ともに避難途中の遭難
- 避難先での遭難者はいない
- 基本的には「避難しなかった」「避難できなかった」人が遭難と推定される
- 2017九州北部では、少なくとも9人が、事態悪化前に家族や近所の人から避難を呼びかけられたが見合わせていた模様 → これらの人は「不意を襲われた」ではない